

高付加価値化と経営管理の強化による収益性の向上

宿泊施設 C

客室数 5 室の同施設では、高付加価値化と経営管理の強化による収益性の向上が最大の課題となっていました。

😊 高付加価値化と経営管理の強化が最大の課題

大正前期に建てられた歴史的な木造建築、川魚やジビエ、山菜など里山の食材をふんだんに使った創作料理、ごはんを昔ながらのかまどで炊く体験等がお客様に好評な一方で、館内の使い勝手・過ごしやすさを高めることによる高付加価値化と、数値をしっかりと捉えて経営管理を強化していくことが最大の課題でした。また、これまでプロモーション活動が不足していたことから、それを推進する必要もありました。

😊 伝統の中に、現代的な使いやすさを

こうした強みや弱みを共有したうえで、「より現代的な使いやすさ」を館内に盛り込むことを主テーマとしました。3階客室にはベッドやソファを導入して、高齢者や外国人も快適に過ごせる環境を整えました。ソファは、自慢の「庭」を楽しめるように配置。地元の作家による行灯照明により、室内の雰囲気も高めています。その他、全客室のドライヤーなどの備品の更新も行っています。パブリック施設には、ソファを置いて快適性を高めるとともに、子供向けに自然素材の玩具を設置。さらに当施設がモデルかつ舞台となった映画のメイキング映像を上映することで、利用客の「再来動機」づくりを図りました。



3階客室（改善前）



和室にベッドやソファを導入することで、現代的な過ごしやすさを高める。ソファからは当館自慢の「庭」が望める。

▼改善実施内容（改善前と改善後の比較）



パブリック施設（改善前）



パブリック施設（改善後）

ソファを導入することでくつろぎ安さを高めるとともに、玩具や映画のメイキング映像を入れることで楽しみも付加。